

(2) 需要面での影響が大きい

東日本巨大地震が発生して1週間10日過つてくると、被災地の広がりや規模の度合いが桁違いに大きなものであったことが明らかになって来ています。滅茶苦茶に壊された家屋や水没した田畑ばかりでなく、放射能汚染の広がりには直ちに健康に影響するものではないと聞かされながらも、心穏やかにはられないものとなっています。特に農産物関連で見れば、穀倉地帯としての宮城県と園芸産地としての福島・茨城両県での被害は、夏秋作に向かって極めて影響が大きいとみななければならないのではないのでしょうか。

首都圏の卸売市場からみれば、茨城県は千葉県と並んで数量・金額ともに1～2を争う大産地であり、福島県もベスト10にランクインするうえに6～9月期の果菜類に関しては30～40%のシェアを誇る産地です。両県とも園芸品目の主たる産地は幸いにも県西部地域に多くあり、原発事故の一日も早い終焉の時が待たれるのですが、怖いのは時として流される誤った情報が一人歩きしての風評被害ではないのでしょうか。それだけに今は正確な情報が正しく伝えられ、市民皆が冷静に対処することが大切であろうと思います。

春分の日中心の連休を前にした東京市場への入荷状況は、水産関係は若干少なめであったが、農産物は決して少ない数量ではなく、むしろ被災した東北地方の市場への出荷分が物流事情の悪さから東京止まりとなった面もみられて安定している状況にあるとも云えます。春夏作の各品目は関東以西産地が中心であるだけに、当面の荷動きには大きな問題を抱えるようなことは無いのではないのでしょうか。

むしろ大震災の影響は供給面より需要面に色濃くみられてくると云わざるを得ません。計画停電が行われていることによって営業時間を小刻みに短縮せざるを得ない百貨店やスーパーなどの小売店、そして飲食店やファミレスなどの外食企業、中食産業を含めて仕入れの抑制に走っており、更にガソリン不足や停電への備えで外出を控える消費者と儘ならぬ状況に陥っています。それだけに今は必需的野菜の動きはともかく、嗜好的野菜や果物そして花卉などの商況は低調にならざるを得ないことになっています。

何はともあれ今は未曾有の大震災の被災者に思いを馳せながら、一日も早い復興と再起を祈らずにはいられません。そして放射性物質の汚染については過剰に反応することは戒めなければなりません、事実が事実として正しく怖がる姿勢は必要なことだと思います。

(鈴木重雄筆)